障害者による情報取得等に資する機器等の開発及び普及の促進並びに質の向上に関する協議の場（第7回）
2026年10月29日

資料２－４

NICTにおける情報バリアフリー環境の実現に向けた取組等について

国立研究開発法人 情報通信研究機構

NICT DE&I

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の概要

NICT: National Institute of Information and Communications Technology

ICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関





公的サービス:

- 日本標準時
- 宇宙天気予報
- 無線機器較正業務
- サイバー演習業務
- 人材育成
  （SecHack365, NQC等）

戦略４領域:

- AI・コミュニケーション
- Beyond 5G
- 量子情報通信
- サイバーセキュリティ

重点５分野:

- 電磁波先進技術分野
- 革新的ネットワーク分野
- サイバーセキュリティ分野
- ユニバーサル
  コミュニケーション分野
- フロンティアサイエンス分野

支援:

- 革新的情報通信技術基金事業
- 国内ICT R&D支援事業
- 国際連携研究支援
- 情報バリアフリー関連事業
  支援　等

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の概要

NICT: National Institute of Information and Communications Technology

令和8年4月現在

概要

主な業務

「国立研究開発法人情報通信研究機構法」より

- 情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発
- 高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援
- 通信・放送事業分野に属する事業の振興

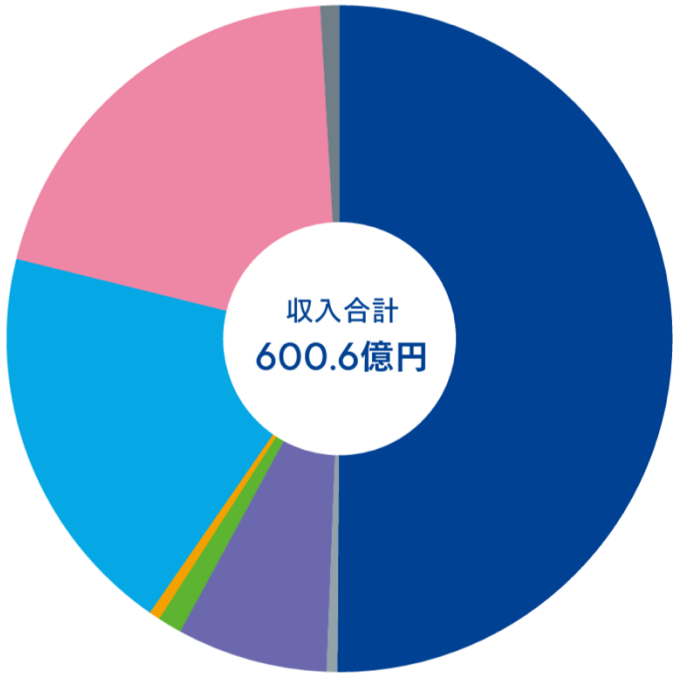
設立日 平成16年4月1日

中長期計画 令和8年4月～令和13年3月（第6期）

職員数 1,653名（非常勤職員を含む）

予算

令和8年度計画



運営費交付金
301.0億円

施設整備費補助金
3.1億円

情報通信技術研究開発推進事業費補助金※
44.2億円

情報通信利用促進支援事業費補助金※
7.0億円

電波利用技術調査費補助金
3.3億円

情報通信技術研究開発推進基金補助金
115.0億円

受託収入
121.5億円

その他収入
5.5億円

※前年度からの繰越額を含む

情報バリアフリー環境整備への支援

NICTでは、身体障害者を含む全ての人が情報通信を円滑に利用できる**情報バリアフリー環境の実現を図るため**、総務省から補助金交付を受け、「身体障害者の利便の増進に資する通信・放送身体障害者利用円滑化事業の推進に関する法律（平成5年法律第54号）」に基づき、**次の事業を実施**

1．身体障害者の利便増進に資する情報バリアフリー事業に対する助成

身体障害者が通信・放送サービスを円滑に利用できるようにするための役務の提供・開発を行う事業に対し、助成対象となる経費の一部を助成

【情報バリアフリー役務提供事業推進助成金】（平成13年度～）

2．身体障害者向け放送のための字幕番組制作等の事業に対する助成

視聴覚障害者のテレビジョン放送の視聴を補助する字幕番組、解説番組及び手話番組の制作や聴覚障害者のテレビジョン放送の視聴を補助する手話翻訳映像の制作、生放送番組に字幕を付与するための機器の整備に対し、助成対象となる経費の一部を助成

【字幕・解説・手話番組制作促進助成金】（平成５年度～）
【手話翻訳映像提供促進助成金】（平成22年度～）
【生放送字幕番組普及促進助成金】（令和５年度～）

3．情報バリアフリー関連情報の提供

「情報バリアフリーのための情報提供サイト」、「情報アクセシビリティ支援ナビ(Act-navi)※」を運用し、身体障害者等に役立つ情報など、情報バリアフリーに関わる幅広い情報を提供

※総務省が構築し、NICTが運用

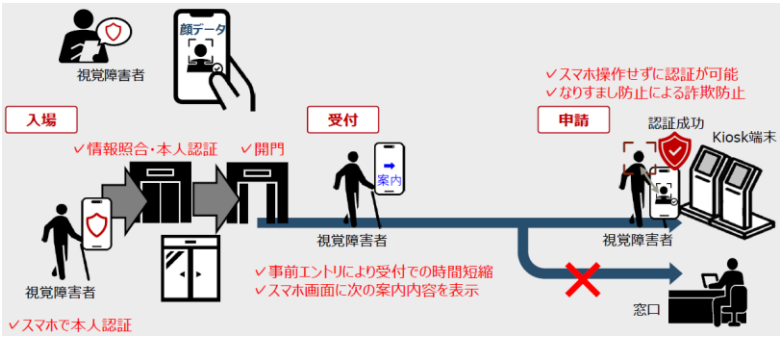
(参考)令和8年度情報バリアフリー助成事業①

視覚障害者向け認証確認型アクセス支援サービスの開発・提供

日立チャネルソリューションズ(株)

視覚障害者が施設・住宅等の出入口やゲートを第三者の常時介助に依存せず、安全かつ円滑に通過できるようにするとともに、来訪者についても本人性および有効な資格・訪問権限を確認した上で受け入れ判断を行える通信役務を開発・提供。本人通過支援と来訪者信頼確認支援の両面から情報バリアを解消し、自立的な移動・施設利用・在宅生活を支援。

【イメージ】

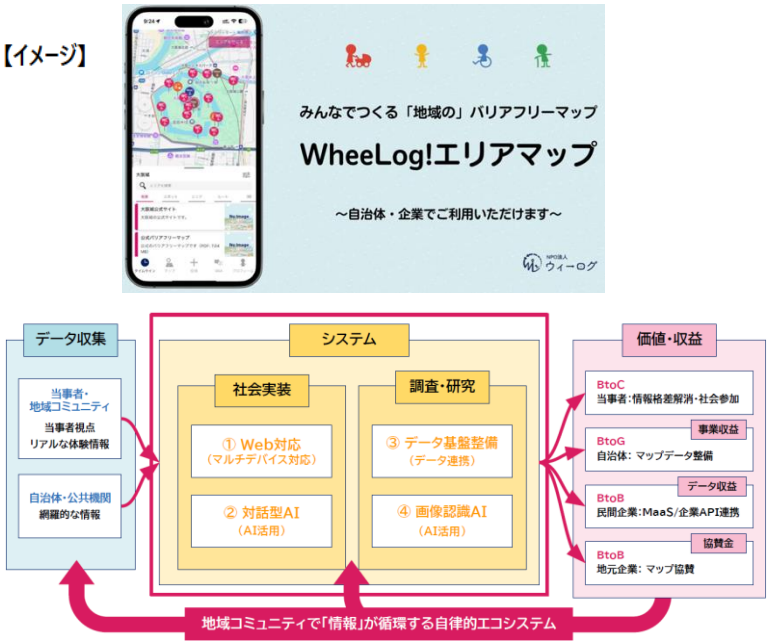


ICTを活用した車いすユーザー向けバリアフリーマップの開発・普及

認定特定非営利活動法人ウィーログ

車いすユーザー向けバリアフリーマップ「WheeLog!」のWeb版刷新を行い、生成AIによる対話型検索や自治体保有データの統合を推進。視線入力等を用いる重度障害者を含む利用者の情報探索負荷を軽減し、精緻なバリアフリー情報を容易に取得できる全国的な情報基盤を構築することで、社会参加を支える持続可能なバリアフリー情報インフラの実現を目指す。

【イメージ】



きこえない人ときこえる人のコミュニケーションを円滑にするためのサービスの提供

ソフトバンク(株)

手話認識技術を実用化水準へと引き上げ、聴覚障がい者と健聴者の双方向コミュニケーションにおける情報保障を確立することを目的として、実社会の多様な手話表現に対応するための手話動画データ収集および、ユーザーが自由な手話表現を登録できるUIを既存アプリに実装し、継続的な精度向上を可能とするサービスを提供。

SureTalk:AIを活用した手話・音声間の相互変換機能および手話データ登録機能を備えたコミュニケーションツール

【イメージ】



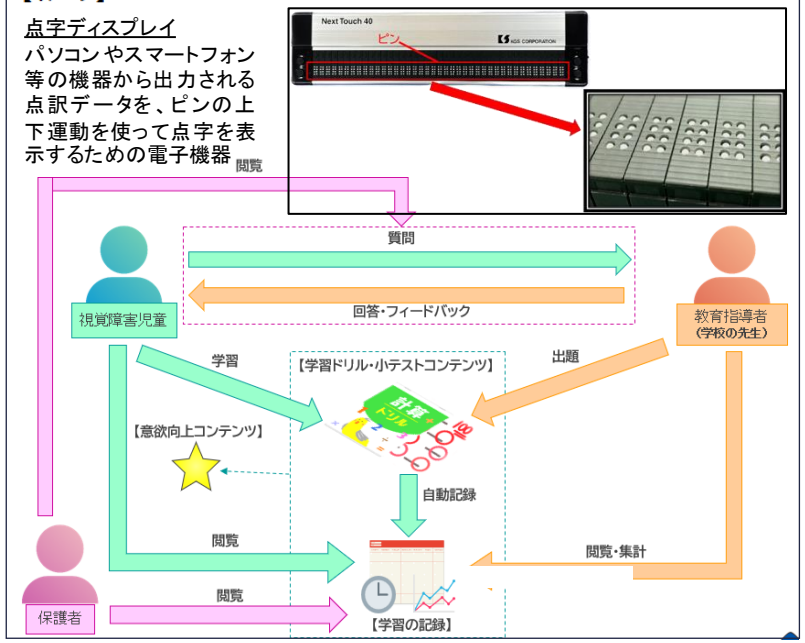
(参考)令和8年度情報バリアフリー助成事業②

点字ディスプレイを活用した視覚障害者向け学習支援WEBアプリケーションサービス提供

ケージーエス(株)

パソコン又はスマートフォンと点字ディスプレイを接続した環境で利用する、視覚障害児童向け学習支援WEBアプリケーションを開発・提供。ブラウザ上で利用可能な学習ドリル機能や学習記録機能等を通じて、視覚障害児童の学習機会の拡充と教育現場の効率化を図り、進学・就労の選択肢拡大に寄与。

【イメージ】

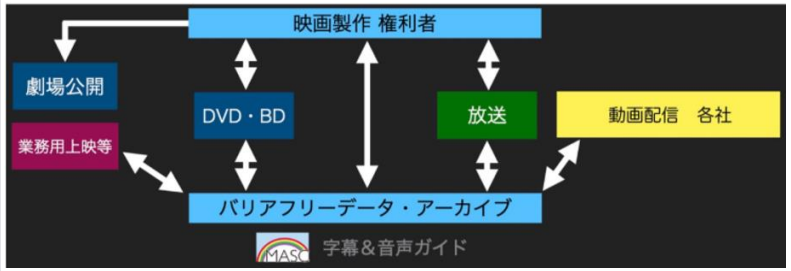


視聴覚障害者向けエンターテイメントの情報保障サービス

特定非営利活動法人
メディア・アクセス・サポートセンター

映像視聴や芸術鑑賞において制作されたバリアフリーデータ(聴覚障害者用字幕・視覚障害者用音声ガイド等)のアーカイブ化、管理・運用を行うともに、「セカンドスクリーン型情報保障」を進めながら、バリアフリーアーカイブデータのメディア業界全体への提供を行い、視聴覚障害者のバリアフリー視聴環境を整備。

【イメージ】



字幕メガネによる情報保障サービス



聴覚障害者のコミュニケーションを支援する会話可視化サービスの提供

ピクシーダストテクノロジーズ(株)

聴覚障害者も参加する会議等の場において、複数者の音声をリアルタイムで可視化するサービスを提供。音声認識と独自開発のマイク・専用アプリを用い、「誰が」「何を」話したのか、話者の方向と文字化した音声を表示することができ、AIを用いた会話要約作成機能で、会話全体の内容を簡単に把握することが可能。

【イメージ】



NICTにおける研究開発①　多言語音声翻訳アプリVoiceTra(ボイストラ)

- NICTが研究開発した音声翻訳技術の実証実験として公開。利用無料。
- 33言語間の翻訳に対応。
- 短文の旅行会話が得意。

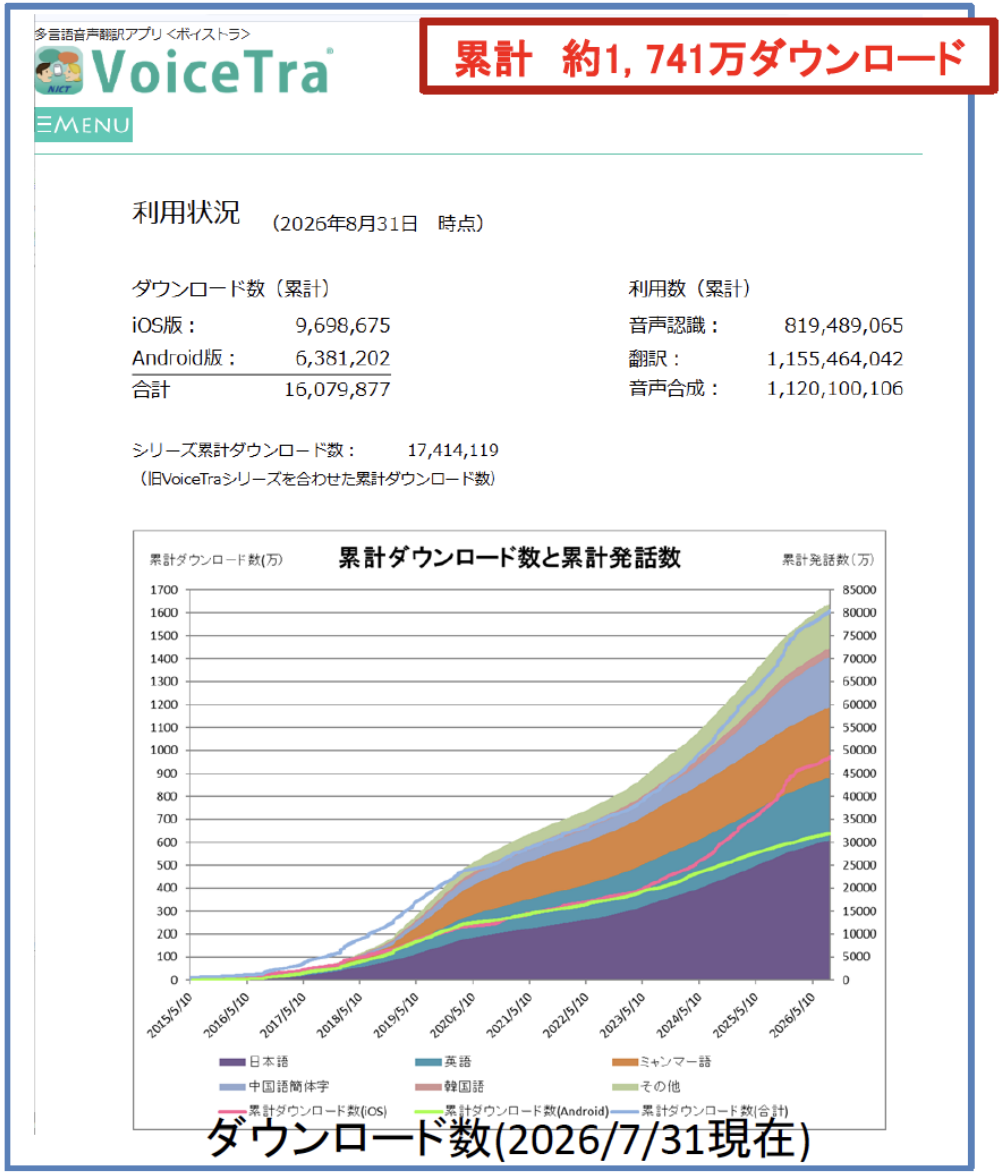




VoiceTra

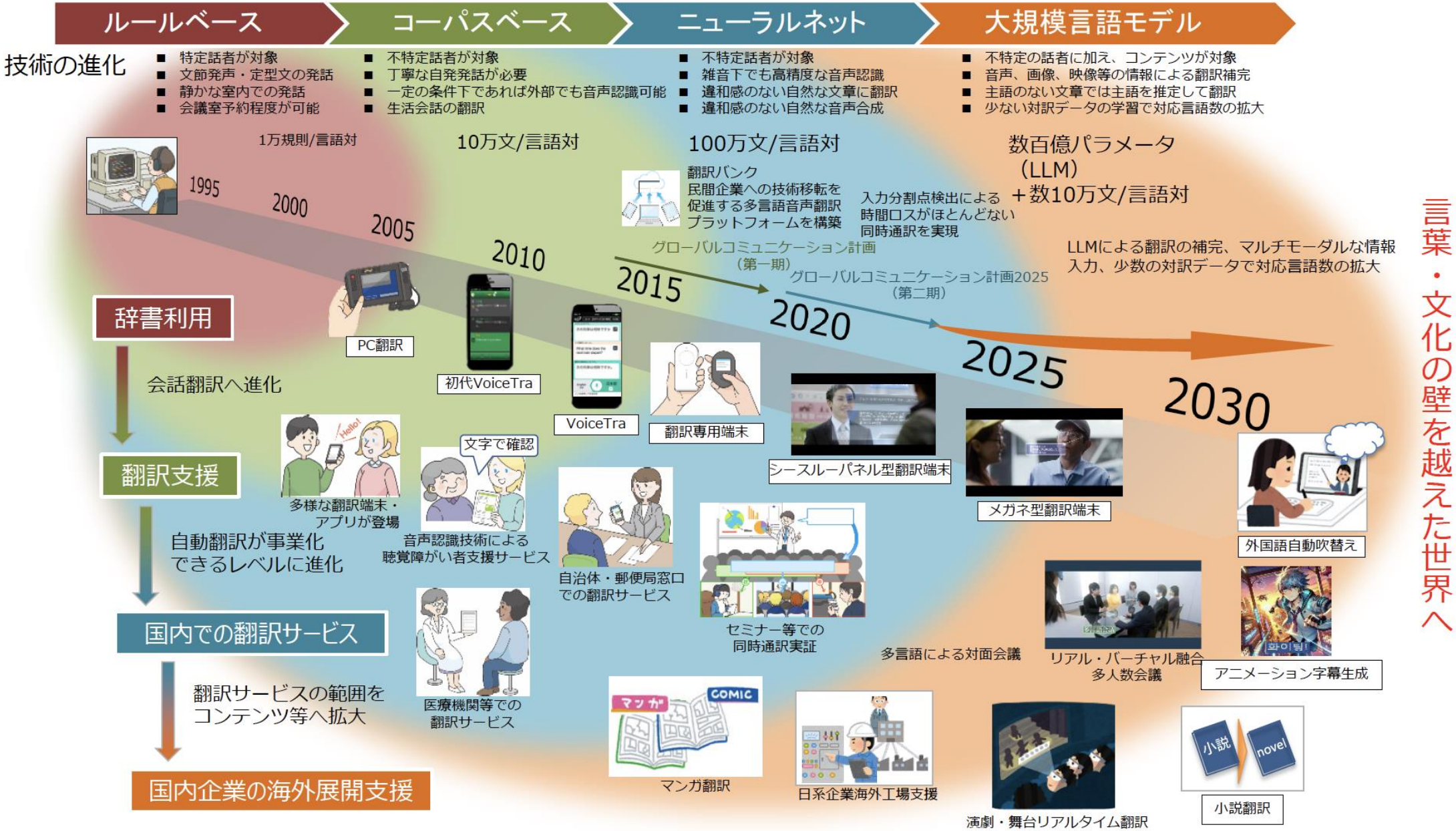
重点23言語を強化中

日、英、中（中国語・台湾華語）、韓、スペイン、フランス、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、ポルトガル（ブラジル）、ロシア、ヒンディ、アラビア、ドイツ、イタリア、ウクライナ、ネパール、クメール、モンゴル、タミル、ベンガル



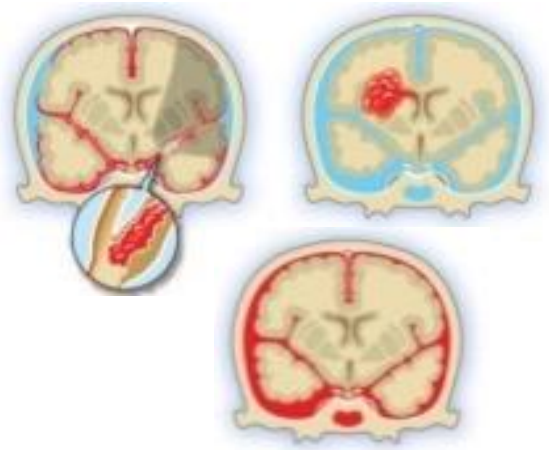
ダウンロード数(2026/7/31現在)

NICTにおける研究開発①　多言語音声翻訳アプリVoiceTra(ボイストラ)



NICTにおける研究開発②　リハビリ支援ロボット

脳科学から人間の感覚・運動機能を理解し、改善・向上する研究開発





日本の脳卒中患者
新規発症：20-30万人/年

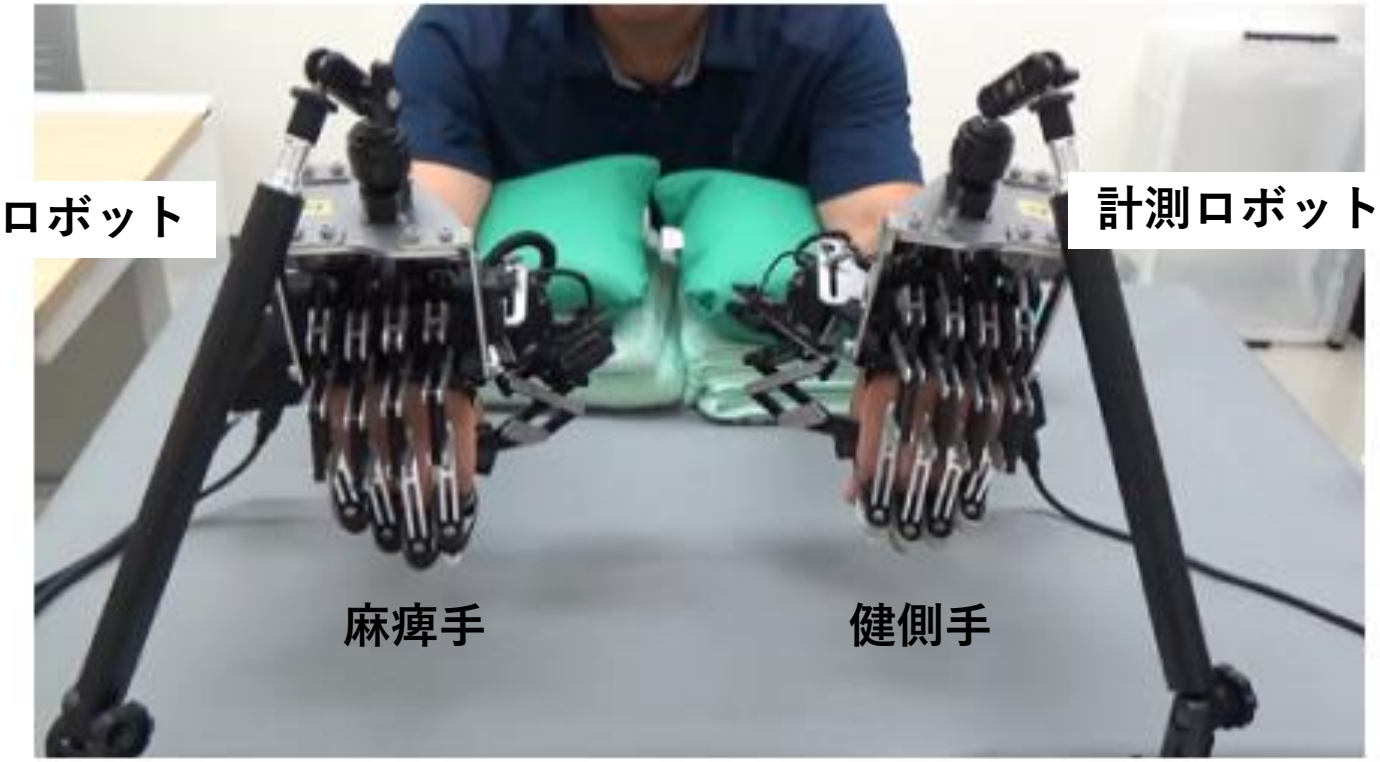
手指運動障害：

急性期-回復期	70-80％	14-24万人/年
慢性期(6か月以降)	40-60％	8-18万人/年

脳卒中後の手指運動機能改善は難しく、多くの人が手に麻痺を残したまま、退院して不自由な日常生活を送っている現実

NICTにおける研究開発②　リハビリ支援ロボット

手指外骨格ロボットを使って脳の自発的運動機能回復を促進する次世代型リハビリテーション法



脳卒中後の慢性期に片麻痺のある方が、動かしやすい側の手と麻痺側の手を同時に動かそうとすると、計測ロボットが動かしやすい側の手の動きを捉え、制御ロボットが約50ミリ秒遅れて麻痺側の手の動きを支援。
左右の手を連動させることで感覚と運動の結びつきを促し、機能が保たれている脳の神経回路を活用して、自発的な運動機能の回復を促すことを目指します。